常磐毎日新聞

日刊

定價 [illegible]
發行兼編輯人印刷人 [illegible]
發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式會社

大氣豫報
今晩は北西風
明日も北西の晴一時曇

息詰る新考査を前に
兒童へ贈る入試の奥議
答へは總て"正直"であれ……

入學試驗史に全く新しい一頁を加へる學科全廢、內申、人物考査、身体検査の三者綜合判斷といふ新方法で行はれる平市內中等學校の入學銓衡はいよ／＼三日後の廿九日から一齊に實施されることになつた、去二月十日から一齊に始まつた志願者の願書受付に競爭地獄を避けさせやうと苦心する當局の親心からの二股禁止や願書の肩代へ便法や、矢繼早の緩和策を一蹴して定員をはるかに突破千五百七十五人といふ上に現した、次いで措置云々のやかましい小學校長からの內申報告もすつかり出揃つた、今はもう靜かに目指す中等學校の各教室で行はれる人物検査と身体検査を待つばかり、そして人物検査に出す問題は各校共苦心を重ねて既に決定してをり、受験兒童の前に出る日を待つばかりだ、こゝに登場する二千兒童"學科は廢止されたれど"ひら／＼く脊に背いて、人生難關の第一門に突進する幼い可憐な魂と彼等を廻つて焦躁に喘ぐ數萬の親心は三日後の試煉に心は重い、――この人達のために一服の安靜劑を贈らう第一に問題になつてゐるのは人物考査であるが、どんな問題が出るか總ての關心は今この問題に集中されてゐる、この問題に對して文部省では『日常生活において經驗する普遍的事項に附德性に基く判斷（その過程における情操の深度、推理の適否につき考慮す）を考査すること』と指示してゐる、先づこれを讀んで苦しんだのは中學校の先生方であり次で小學校の先生そして今では一般受驗の父兄の頭痛の種となつてゐる、しかし頭痛を病むには當らない、この哲學的な文句を平たく譯せば何のことはない『兒童の毎日やつてゐることについて尋ねゝ見る』といふことなのである、これを具体的にいつて見れば問『君は今朝起きてから どうしましたか』に對して兒童は數人の見知らぬ先生の前でどう答へるか中には『お父さんお母さんにおはやうと挨拶して蒲團をたゝんで庭を掃いて來ました』と堂々答へるものもあるだらうし又他の一人は、『試驗のことで夢中で顔も洗はずに來ました』と答へるかも知れない、試驗官はこの間に兒童の徳性を見るべきだ、即ち素直で正直に子供が徳性に基く判斷を有利にする『自分に正直であれ』これが受驗兒童に一番心すべきことであらう、先般洛乘を承つて東京で行はれた考査の問題は非難の的となつてゐる、其だけに各校とも愼重な態度をとつてゐる然も東京の問題が學科にあつたゝめその後再三文部當局から"學科に觸れるべからず"と厳重な通達がなされてゐるから家康は平家か源氏かといふ様な問題や讀本を朗讀させる様なことは絶對に現れないであらうし、又その質問の時間もせい／＼一人五分間と見るべきだ身體検査はムシ齒も色盲も心配はない、普通の体格の持主なら及落に絶對關係はないと見るべきである、發育の標準は身長十四才男（一四四糎）、女（一四四）十五才男（一五一）女（一四八）体重十四才男（三七キロ）女（三九）十五才男（四三）女（四三）胸圍十四才男（七〇糎）女（七〇）十五才男（七四）女（七二）となつてゐる如上の記述が安靜劑となつたかどうかはわからぬが一切、杞憂は廢して朗かに入試街道を突進すべきだ

肉彈五勇士の英姿を
公會堂忠靈室へ掲ぐ
△武勳を永へに讚へる爲

輝く武勳に飾られつゝ新東亞建設の礎石と化した平市出身故鮫島弘道伍長（中隊）木幡文夫曹長（田町）與津卯吉上等兵（六軒門）馬目傳上等兵（新川町）安齋金彌上等兵（立町）の五勇士の戰死詳報がこの程各部隊から市役所に齎されたがその勇猛果敢な行動殊に與津上等兵の壯烈さに關係者は何れも感激を新にしてゐるが市では今度公會堂に新設する忠靈室にこの五勇士の英姿を掲げ永遠に慰めることゝした

即ち鮫島伍長は舊臘八日湖北省京山縣を資湖北の劉嶺附近で頭敵を夜襲により奪取の上敗敵追擊中不幸敵の雷にかゝつたもの、木幡軍曹及び馬目上等兵は舊臘十三日新郷家附近の戰で敵の十字砲火を浴びて倒れたもの、安齋上等兵は去る一月十七日わが警備線を脱出せんとする敵を殲滅中敵弾に倒れたもの、又與津卯吉上等兵は一月二十九日敵陣へ突入銃劍を振ひ數名を芋刺しにその一角を占領し〇隊長が胸部に敵弾を受けるや身を以て隊長を安全地帶に後退せしめた上再び敵陣に突入した刹那、弾に頭部を貫通されて散つたもの時に午前六時四十五分とある

泉驛の魔の踏切
愈よ移轉に決す

常磐線泉驛構內にある縣下一危險な踏切がなくなる

現在同驛構內縣道踏切は一日七十本に達する上下各列車の運行と繁激な貨車入れ換作業のため往々自動車事故の慘禍を惹起するため早くから縣道移の變更を要望されてゐたところ此程一部地主の反對も解消、十八日の村會で縣路間案迴り移轉と決定、工費は鐵道省と日素小名濱工場で折半する

歩兵操典改正で
青年校指導員講習

福島聯隊區司令部では改正歩兵操典並に陸軍禮式令を普及し教練指導員の技能を向上し青年教練の進展を期するため縣下青年學校教練指導員の講習會を開催することになつたが地方における日割及び場所は左の如く講習料目は歩兵操典改正要點の說明、研究懇談、執銃各個教練、射擊姿勢、據銃照準及擊發、戰鬪各個教練、分隊戰鬪教練、銃劍術等で受講者は執銃帶劍に脚絆を穿ちた服裝 筆記具及雜記を携行參集することになつてゐる

△三月二十七日草野青年校 △二十八日平市第一青年校 △二十九日湯本青年校 △植田青年校（指導官中野中佐

平市葬

既報前線で名譽の戰死をとげた平市仲町小野利重上等兵の市葬 廿五日午後一時から公會堂で執行される

知事から表彰

四倉町字蛇川鈴木唯治氏並に石川正の兩氏は昨年十月日本赤十字社福島支部の事業費に各二百圓を寄附したので此の程橋本知事から表彰狀を贈られた

岡山町議逝く

小名濱町町議岡山重喜氏は去る一月下旬盲腸炎で內木博士の手術に依り經過も良好で退院自邸に靜養中のところ、餘後の經過思はしからずみつ子夫人初め息武氏夫妻何れも不眠の看護に餘念がなかつたが病勢攻まり二十日午後八時遂に永眠された

青少年雇入制限令に就て
平職業紹介所長 立澤高元

【十四】

青少年雇入制限令第三條第二號ノ事業指定

(二三)光學機械器具製造業（同右）
(二四)車輛（部分品及附屬品を含む）製造業にして左に掲ぐるもの
(イ)鐵道及軌道車用車輛製造業
(ロ)自動車部分品及附屬品を含む製造業
(ハ)自轉車製造業
(ニ)貨物運搬車製造業
(二五)造船業（部分品及附屬品を含む）
(二六)[illegible]製造業（一具及軸受製造業を含む）
(二七)工具及軸ノ造業
(二八)ベルト車、齒車、車輪及車軸製造業

六 兵器及兵器部分品製造業
七 窯業にして左の各號の一に該當する事業
(一)陶磁器製造業（軍需用、輸出用のものに限る）
(二)碍子及碍管ノ製造業
(三)ガラス及ガラス製品製造業（軍需用、輸出用のものに限る）
(四)耐火物製造業
(五)セメント製造業
(六)セメント製品製造業
(七)琺瑯鐵器製造業（軍需用、輸出用のものに限る）
八 化學工業にして左の各號の一に該當する事業
(一)製藥（農業藥品を含む）業
(二)工業藥品製造業
(三)染料及中間物製造業
(四)人造ゴム及再生ゴム製造業
(五)ニカハ材料製造業
(六)塗料及顏料製造業
(七)發火物製造業（軍需用、輸出用、工場事業場用のものに限る）
(八)石油精製業
(九)人造石油（頁岩油を含む）製造業
(一〇)コークス及コールタール分溜物製造業
(一一)代用液體燃料製造業
(一二)植物油脂製造業（軍需用、輸出用のものに限る）
(一三)動物油脂製造業（同右）
(一四)加工油製造業（同右）
(一五)ゴム製品製造業（軍需用、輸出用、工場事業場用のものに限る）
(一六)人造樹脂及同製品製造業
(一七)パルプ製造業
(一八)製紙業
(一九)アセチルセルローズ製品製造業
(二〇)ヴアルカナイズドファイバー製造業
(二一)寫眞用フィルム乾板及感光紙製造業（軍需用、輸出用、醫療用のものに限る）
(二二)肥料製造業
(二三)製鹽業

關田（勿來）校にも
高等科併置すべし
部落民近く縣へ陳情

勿來町は就學兒童の激增に惱まされ、勿來窪田尋常高等小學校に本年度から八級增加することになつたが、一方地域の關係から窪田部落とは事毎に對立してゐる關田部落は現在同部落から六十六名の高等科生が一里の道を窪田校に通つてをり隣縣茨城縣平潟校にも約廿名が通學してゐる狀態なので關田小學校にも高等科を併置すべく運動を起し町會は紛糾してゐるが縣學務部の意向を質すと町會の決議さへあれば認可するとの言質を得たので關田部落民は部落會を開き陳情書に認印を取まとめる等氣勢をあげてゐる

協和會植田役員會

協和會植田支部の補導員會は廿四日午前九時植田署で開催、支會長横田植田署長、參與中山吉之助氏外六名、顧問古川植田町長外三名補導員金容添氏外十五名を任命

亂暴男、火箸で同僚を刺殺
逃走中平署に御用

平署では目下平市新川町生れ內鄕村字竹內石川鶴太郎（四八）を傷害致死罪で檢擧渡邊司法主任が嚴重取調べてゐる

石川は去月廿九日夜八時ごろ石城郡箕輪村系田木金成炭礦長屋で新礦着炭礦の酒を飲み同僚の同町渡邊藤一（三二）と些細なことから喧嘩を始め爐端にあつた火箸で渡邊の右眼を突刺し渡邊は間もなく化膿性腦膜炎を起し去る十二日死亡普通、病死として火葬されたが、石川は自責の念に居堪らず姿をくらましたので平署で不審を抱き調査を開始したもので取調べの結果死亡の原因は石川の暴行によるものと判明した

石城町村長會 石城町村長會總會は廿七日午前十時平市公會堂で開き四月十日の忠魂祭豫算並に教育部會の新年度豫算を協議する

無免許で運轉
通行人を傷つく

平市內白銀町貨物自動車業神谷兼次郎氏方自動車運轉助手市內長橋町遠藤力雄（二五）は二十日午後四時頃無免許で湯本町から砂利滿載のトラックを運轉し名濱町に向つて疾走中湯本町天王崎地內で前方から自轉車に乘つて來た渡邊村字風呂澤炭燒人夫ヶ尾市太郎（一五）君に衝突同人の頭部及び腹部其他に重傷を負はせ目下平署で業務上過失傷害罪で取調べを受けてゐる

入學考査
小名濱高女
卅、卅一兩日施行

新設小名濱實科高女の入學考査は三十、三十一の兩日行はれるが入學希望者は現在定員六十名に對して八十餘名二、三、四年編入試驗は四月二日、これ等も五十餘名の入學希望がある

弟殺し
廿八日公判開廷

既報飯野村字上荒川農小黑人一（三三）に係る殺人事件公判は廿八日平支部菅間裁判長係りで開廷されるが事件は弟清一郎の顚癖を矯さうと松葉杖で毆殺したもの

永崎船曳場竣工 江名町字永崎の船曳場新設完成廿七日竣工式を擧行

平職紹に……
少女相談部新設
職場道案內に勇士未亡人招聘

平職業紹介所では今度時局に鑑みこの程實施された雇入制限令によつて急に拓けた少女達の職場の道案內として今次聖戰で散華した勇士未亡人を聘して少女相談部をも併せて新設することに決定したが勇士補導部にはその事情に最も通じてゐる傷痍軍人中から係員を招聘することゝなつてゐる

頃同町字一函地內道路で入山炭礦坑夫藤原恭一（三）に因縁をつけて袋叩きにして頭部に全治十日間の負傷させ更に九圓在中の蟇口を强奪したこと發覺、この程平署へ檢擧された

氏二女紀美子さん

△六間門 六日下東京市大森區へ新井六ノ六三相川勇氏四男公正君

△南町四五鈴木源次郎氏四女美津子さん

回 婚姻

、東京市足立區千住河原町四八塚寅三（四二）氏と南町二 鈴木ミツイ（二九）さん

、安達郡高川村大字字畑川二四高橋正氏（二九）と四町目八鈴木六子（三三）さん

回 死亡

八南町二〇正見氏長男三瓶光正（一）君

八田町二六日下横濱市中區山元町三ノ五六立川久成（五九）氏

材木町四二富彌氏二男長瀨修造（三六）君

植田方部女青總會

石城郡南部區植田方部青年團女子部の總會は二十八日午前十時から植田校で開催される

小學校を擴張 神谷村では皇紀二千六百年記念事業として小學校庭の擴張工事を行ふ事になつたが地盛り其他に鄉軍男女青年團、同窓會員が勞力を奉仕する

炭礦のダニ狩り
四名を檢擧

湯本町字下淺貝無職三瓶多十（三二）同人山炭礦坑夫高橋靜男（三二）同篠原進（三二）飯島俊雄（三二）四名は去る十日午後一時半

藤田女校

廿四日卒業式 平市藤田女學校の第八十五回卒業式は二十四日午前九時から擧行されるが當日は卒業記念の製作品を陳列する

米麥增産協議 平市は廿一日午前九時から公會堂に農事實行組合員を集め麥肥配給割當と米麥增産協議する

人事往來

平市會津鄉人會では二十一日午後六時からマルトモホールで新任渡部平署長歡迎と磐女から岩手黑澤尻中學に榮轉する山口彌一郎氏の送別會を開いた

平市人事

六人町 目下植田町字
本町 九久保木授次郎

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間「こども音樂講座（三）」樂譜の讀み方解說 弘田龍太郎
▼後六、二五 講演「南洋ペルーにおける在留同胞の現狀」雨宮延平
▼後七、二〇 鄉土に寄する言葉（錄音）讀賣新聞社外報部長 鈴木東民
放送開始十五年記念特輯番組（第一夜）。
▼後七、三〇 講演「我が國放送事業の今昔」荻野元太郎
▼後七、五〇 放送の二十四時間 德川夢聲、今井慶松、白光御家小さん 旭堂南陵

明日の部

▼前九、三〇 幼兒の時間 童謠とガクタイ
▼前一〇、〇〇 衛生メモ
▼前一〇、一〇 家庭の時間「子供の戶外遊び」の指導 竹內菊枝
▼後〇、〇五 土曜コンサート（輕音樂）大阪輕音樂團 獨唱井上英 指揮內田元外
▼後二、〇〇 婦人の時間 特輯 此頃のニュースから「最近の鄉事情」竹內夏積
▼後六、〇〇 子供の時間 少年講談「母の力」山野一郎
▼後六、二五 講演「人事調停の話」東京區裁判所判事 山崎一郎
▼後七、二〇 鄉土に寄する言葉（錄音）東日社運動部顧問 弘館鐵
▼後七、四〇 國民歌謠
▼後七、四〇（中支より）
【放送事業開始十五周年記念特輯番組（第二夜）
▼後八、〇〇 謠曲「竹生島」シテ梅若萬三郎 ワキ寶生新
▼八、五〇 ラヂオドラマ「なだれ」瀧澤修 澤村貞子 清川玉枝外

郷土に寄する言葉

（午後七時廿分放送）
[illegible]主幹 鈴木東民
（岩手縣出身）

日本の農はヨーロッパ、バルカン諸國の農村を彷彿せしめるものがあるといふが、バルガンはヨーロッパの中、文化程度の低い地方で之と比べられることは決して名譽ではない、特に東北などは日本のうちでも低い方になると思ふ、併し東北は文化の方面から見ても相當の人々が輩出してゐるし、そこから學績や作品の中に粘り強い事物の眞相に徹せんとする性格が脈々と流れてゐるかゝる人と自然とを持つ東北の將來は多大の期待がかけられると私自身東北人たることを感激してゐる

父重喜儀病氣加療中の所藥石効なく二十日午後八時死去仕候間此段御通知に代へ謹告仕候

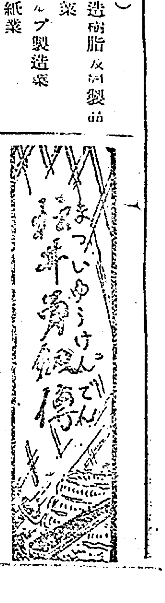
追而葬儀は三月廿三日午後二時自宅出棺地福院に於て佛式により執行仕候

昭和十五年三月廿一日

喪主 岡山武
親戚總代 岡山太次郎
小野晉平
友人總代 小濱長太郎

「旨い」と一言（ヒトコト）にして盡く
神戸牛
すき燒
相始め申候
日本料理
平市仲田町
山茶莊（つばき）
電五二〇

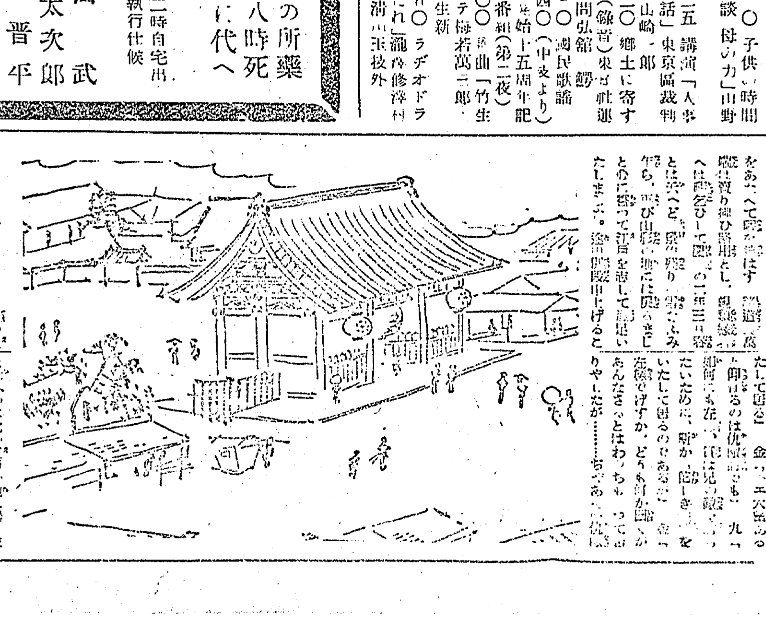
喜多流謠曲 仕舞
お稽古をお奬め致します
入會隨時
平市田町六九
謠曲 仕舞 [illegible]



第三十一回
仇敵に狙はる

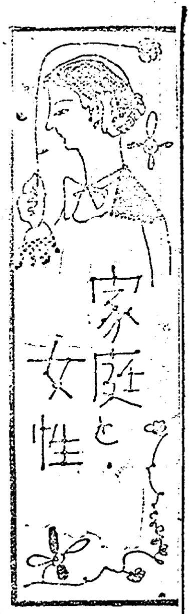
身を起し、[illegible]九郎兵衞大いに[illegible]んだが[illegible]仇討も如何と、一旦は思ひ止まらせやうとしたが、[illegible]是非お別れ[illegible]仇敵のありかを早く[illegible]出させ[illegible]して[illegible]にはなりませぬからと願ひ、頼みますので、それでは[illegible]すと仇討の供を許しました[illegible]平の喜びは大したものでござ[illegible]す。[illegible]

[illegible]



ともありません[illegible]なく目[illegible]の江戸の地へ[illegible]ることが出來ました。[illegible]が知らず……とやら江戸へ到着して見て[illegible]いた。山間の城下とは違つて[illegible]のお膝下、其の[illegible]でございます。九郎兵衞は[illegible]

[illegible]



家庭と女性

男性は複雑怪奇

山岸しづえ

およそ、男と女の問題は結局のところ男と女の二人だけでいくら焦つてみた[illegible]で解決できるものとは思はれません。やつぱり世の中の[illegible]に依つほかないものが多いのではないでせうか。

……

共同炊事をするとか、[illegible]生活をするとかいつた[illegible]なれば、大した困難なしに夫婦間の問題もある程度まで解決するもので す。それはそれとして、男の人つて、[illegible]と後ではあんな風に變つてしまふものでせう。お女房として交際してゐるときとか、戀愛時代には、少し[illegible]な男性はそれこそ一所懸命に女[illegible]するとでも申しますか、自分と同じ高さまで引き上げようとしていろく[illegible]かせたり[illegible]たりするのに、さて結婚してしまふとまるでそんな[illegible]なところが消えてしまふのですから不思議です。そして女に[illegible]する態度だつてまるで變つてしまつて、女が[illegible]つて行く餘裕をみせなくなつてしまふのです。それにまた、男の人はよく「俺は女房なんかこはくないよ」てな顔をしてみますけど、これがそもくけしからん[illegible]です。

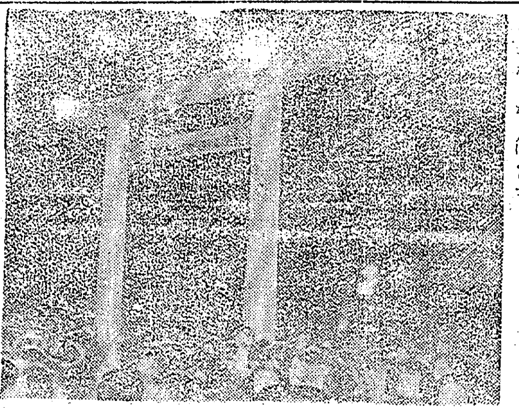
……

つまり[illegible]がその[illegible]子、女房なんて「ないやうなもんサ」といつた[illegible]態度になるのでせうか、そこへ行くと女はしよつちゆう[illegible]額にはりつけてゐます。いつてみれば女はそれだけ正直。男、殊にも[illegible]は複雑怪奇で、ほんとにうつかりすれば女房にもつかめなくなります。これでい、[illegible]にづはないと思ひますが……。

神社の參拜にも正しい順序

一家揃つて さあ參りませう

日本は敬神の國です、[illegible]には敬[illegible]に參拜いたしませう わけて今年は皇紀二千六百年さあ皆さん神社へ參りませう、ところでこの參拜の作法には[illegible]から一つの方式があります。しかし人により土地によつては多少やり方を異にする[illegible]も少くないやうですまた、まだ[illegible]としても[illegible]されたものがありません、つぎ、[illegible]例として行はれてゐる[illegible]を申上げて見ませう



社にはどこへ行つても必ず鳥居あります、鳥居は一つの場合もあるし、二つまたは三つの場合もありますが、假りに三つの場合[illegible]は申上げますと、まづ一の鳥居[illegible]ところで帽子をとり、姿勢を正し[illegible]をさげ輕く[illegible]をします

◇…それからは私語を交へず、[illegible]にしづかに行進[illegible]、第二の鳥居のところで外とう[illegible]を[illegible]め、更に[illegible]の鳥居の前で第一の鳥居のと[illegible]を行つたやうに[illegible]い[illegible]を行ひ[illegible]んで拜殿の前へ行き二拜二柏[illegible]一拜をして[illegible]をします

◇…二拜柏手とは、上體を[illegible]十五度までまげ、[illegible]はズボンの側面の縫目にそうて正しく[illegible]げて二回拜をし、つぎに上[illegible]起して正しい姿勢で左右の手[illegible]合せ二回柏手するのですこの[illegible]合右手に左手よりも一[illegible]手前へ引いて合せます、[illegible]二度手を打つのです[illegible]手がをわつたらまた[illegible]する、そして帽子や外とう[illegible]鳥居の位置まで[illegible]さがり[illegible]び御本殿に向つてかる[illegible]し、ついで第二の鳥居のと[illegible]でまた御本殿に向つて[illegible]く一禮の上外とう、帽子をつけ[illegible]ります

◇…以上は三の鳥居まであ[illegible]ですが一つの場合は第一の鳥居の位置で帽子外とうをとつてかるく一禮し、それからお水屋で手を洗ひ口をすゝいで身を清めた後、拜殿の前にすゝんで二拜二柏手一拜の禮を行ひます

居二つの場合は第一の鳥居で前[illegible]に行ひ第二のとりゐで更にかるく一禮してから、拜殿の前で二拜二柏手一拜をする時にする

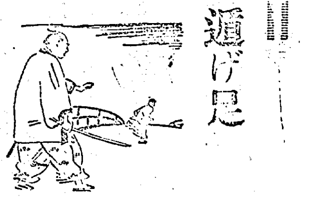
◇…このごろ[illegible]では、拜禮の作法をきめてゐますが、それによると二拜二柏手だけで、あとの一拜がありません、これが本當としたら今後はこれで行きたいと思ひます

[illegible]

また神社によりますと、拜殿に鈴のあるところがありますが、この場合に拜殿の前で鈴をならし、姿勢を正して二拜二柏手一[illegible]します、[illegible]鈴の前にあ[illegible]るのが本當のやうです（中央[illegible]北關[illegible]谷[illegible]談）

家庭教材 其角の逃げ足

元祿の頃、江戸に大野秀和といふ俳諧師があつた。[illegible]其角とは[illegible]仲の間であつたのである。ある時其角が某所で自分のことを惡しざまに言ひのゝしつたといふので大いにいきどほり、何とかうらみを晴してやらうと待つてゐた。[illegible]が下谷[illegible]の上で[illegible]逢ふたので、これとばかり[illegible]



かどうか、次の[illegible]心におぼえのあることであらう、[illegible]如何に一[illegible]めかし[illegible]、其角は「なつ[illegible]……

この上[illegible]ことはならぬ、サア常に[illegible]いたせ」「イヤそのお[illegible]もつとも千萬、定めし[illegible]が立つであらう、[illegible]に思ふて[illegible]遊ぶのも[illegible]とは思はぬか、相手いたすであらうが只今[illegible]するからしばらく待てくれ」[illegible]ろしい サア早く[illegible]度していで よ。そこで其角は[illegible]をまくり上げ[illegible]腰にはさんで「いざ御參なれ」といふより早くあとをも[illegible]ずに一散にかけ出したので秀和はあまりのことにあつけに取られて[illegible]ずつひに[illegible]なく止んだとのことである。[illegible]といふことであれば、[illegible]に一時の[illegible]にかられて[illegible]なことをしてはならぬ。けだし其角が仕度を[illegible]して逃げだしたのは、一見いかにも[illegible]のやうに見えるが、これが[illegible]で勝つの手段といふべきである。さすがに其角でなくてはできぬことである。

……小ばなし……

十時になつたので、小坊主を[illegible]つき堂へやると、七つだけ鳴らして、さむいくと歸つてきたので「おい、三つ足りないぞ」「いゝんです、殘りは七分搗の時代で[illegible]」

毛髪の若返へり

若白毛や、赤毛、若ハゲの人に[illegible]毛ホルモン及び黒色素[illegible]クロマチンを補給して内部から自然に黒毛とする東京毛髪研究所長[illegible]田先生の新内服療法が發見され、體驗者は大喜びです 東京[illegible]田駿河臺 東京[illegible]研究所へ[illegible]名を明記して申込めば[illegible]本「毛髪の新研究」を無代進呈される（廣告）

お掃除の序に電燈の笠も

お掃除のときついでに電燈のかさをはづし[illegible]つてみて下さい、ず分よごれてゐると思ひますが、これは時節柄不經濟なことです、これを清潔して──水洗ひで結こうです、[illegible]すると、大きい電球[illegible]かへたかと思ふほど明るくなります、月に一回洗へば充分です、これは節電問題のやかましい[illegible]ら、一寸した手數ですむのですから、心がけて下さい、紙張りのかさは時々張りかへますと、夜の部屋が[illegible]返つたやうになります

入浴代用

冷水摩擦と乾燥摩擦 長續きが大切です

入浴代用としての冷水摩擦と乾燥摩擦の[illegible]を申し上げませう

[illegible]質のあまり弱くない人にとつては冷水摩擦はすこし[illegible]てがありますからかわいたタオルで[illegible]をこする乾燥摩擦の方をすゝめます この乾燥摩擦は[illegible]な人にも大へんいゝものです、冷水摩擦でも[illegible]中[illegible]して[illegible]なければ効果がありませんし三日坊主的摩擦はむしろ行はない方が賢明です 一般的に冷水摩擦の効能は皮膚と血管が常につめたい水にあふために寒暑の變化になれその結果皮膚が丈夫になつて病氣に對する抵抗力ができることです 乾燥摩擦に特にいちぢるしく現はれる効能は血液の中の白血球が[illegible]第に増加することによつて[illegible]能がさかんになることとまた[illegible]神經を刺戟するために[illegible]に好影響を及ぼすことです 冷乾摩さつともに[illegible]が赤色を[illegible]するまでこすることが大切です とかくかうしたまさつは長つづきがしませんから長つづきさせる[illegible] 乾燥まさつの方は寢床から[illegible]ときすぐ寢てゐる[illegible]間[illegible]でごしごしこするやうな方法をとるのです 冷水まさつの方は、水[illegible]などでやるのが大へん[illegible]水をくんで[illegible]やうにすれば[illegible]のです

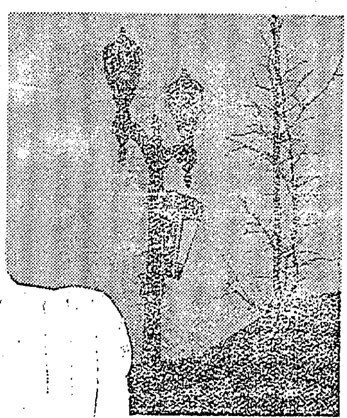
どうすればよいか 日光の節約

木下博士の體驗談

[illegible]事變に刺戟されて今や各方面に「日光節約設施」即ち晝間を最大限に利用しようと云ふ設施が[illegible]に考慮されてゐますが、[illegible]く第一次歐洲大戰當時、いち早く日光節約を實行して大いに實績をあげた英國に在留當時のデイライトセーピングを目擊し體驗した理化學研究所木下正治博士にその折の模樣をきいてみました。

（一）

歐洲大戰が始ると間もなく、英國では電力はもちろんの事あらゆるものを節約すると云ふ意味合ひから、晝間を最大限に利用し、すべての用事を陽のある内にすますと云ふデイライトセーピングが實施されました。



それといふのが英京ロンドンは北緯五十度をしめ夏は日本より一時間早く夜が明けて一時間おそく日が暮る──都合二時間は晝間の時間が長いので、この晝間の時間を有意義に利用しようと云ふ自然の要求があつたわけです。それで夏の日の長い間だけ時計を繰上げて働かうと云ふいはゆるサンマータイムが生れたのです。

[illegible]日の[illegible]か──日はハッキリ覺えませんが──夏期時間開始の日になると一齊に夜中の十二時に一時間だけ時計の針をすゝめるのです。

つまり十二時がなると手早く一時の所に時計の針を廻します。さうして秋、冬期時間の日が來ると又元へ戻すのです。我々異人にとつては針を繰上げる[illegible]とその朝はいつもより一時間早起きしなければならないのが辛いくらひで大して痛痒を感じません

がこまるのは汽車のダイヤの切りかへや[illegible]事務等でせうがこれも夫々その道の技術家が考慮してゐますから夏期時間による事故とか故障がおこつた話はきゝません。

日本でも非常時節約策の一つとして「日光節約」が大分やかましくなつて來たやうですが、日本は夏冬の日の長さの差が餘り大きくないから、英國式のデイライトセーピングとは少し[illegible]もちがふことでせう。然し要するに問題は[illegible]の一日二十四時間が廿三時間になる日に種々技術的な困難がおこりませうが、これも技術的な問題ですから、これさへ克服できれば日本にもとつて以て大いに利用でき得ると思ひます。

どうする

人が大喜び

[illegible]や無[illegible]は何んでも出るが改まるとドモル人の矯正法として自宅矯正法が研究され十五[illegible]以上は自宅で治り大好評です。目下この「[illegible]自宅矯正法」を一人一册限り紙代郵券[illegible]中に付き東京神田スルガ臺「内海正音學院」宛に年齡と氏名を明記して申込むがよい（廣告）

時局小說

（上演映畫と）

驀進

士別 丁村

北野 傳畫

第一〇四回 落盤（四）

どうにか敬け出せるかも知れないと思ふと、彼には、矢も楯もたまらなかつた。

「ね、叔父さん、どうにかならないものでせうか、若し行けるんだつたら、わたし行くわ」

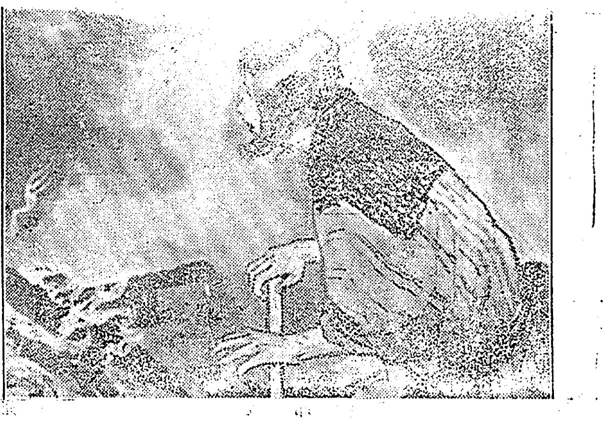
「うむ、只今まで[illegible]、[illegible]めれば[illegible]うにかなるが、[illegible]る所は、[illegible]の右十[illegible]、[illegible]羽で、丁度十九[illegible]羽の天井の落[illegible]なつてゐるんだ、あの天井には[illegible]に[illegible]があつた[illegible]だ、以前はそれが開いてゐたが、[illegible]坑と一緒に[illegible]いである、だから、その[illegible]を開けてやつたら、[illegible]野さん[illegible]を救ふことが出來るかも知れないと思ふんだが」

やがて[illegible]二[illegible]坑の入口に立つた[illegible]と好枝は[illegible]はず[illegible]を見合はせた。小さな山をへだてた[illegible]の方からは、人々の[illegible]してゐる[illegible]が聞えてくる、[illegible]は今[illegible]日について[illegible]られてゐるのである。

「さア、好枝いゝか、此處へ入つたら最後、もう出られねえと思へよ、ハッハッハ……」

[illegible]は、[illegible]枝を元氣づける[illegible]に[illegible]顏を[illegible]つて見せたが、その顏は[illegible]して笑つた顏ではなかつた。

好枝は[illegible]にしてゐた、シャベルを[illegible]しなほし、改めて入口を見渡しながら、[illegible]深いと思つた。何となく[illegible]で、今にもなんだ人が[illegible]と[illegible]ばかりで、出て來さうな感じがした。



［……］

彼女は[illegible]をのんでヂツとその[illegible]を[illegible]いてゐた。

[illegible]になつた[illegible]で[illegible]々[illegible]れるものではない、うつらくしてゐるうちに夜が明けてしまつた。

十九[illegible]の[illegible]作業は、[illegible]として[illegible]どらなかつた。人々は、[illegible]々[illegible]の[illegible]に、一[illegible]する[illegible]だけで、[illegible]の[illegible]しがつかないのである。

[illegible]の[illegible]かな[illegible]では、[illegible]かつてはゐまいといふのであつた。[illegible]らく[illegible]してしまつたであらうといふのである。

午後一[illegible]、[illegible]く[illegible]した[illegible]は好枝を[illegible]れて、只二人で[illegible]へ向つて歩いて行つた。[illegible]の人[illegible]すれば、[illegible]下に一[illegible]に付せられる[illegible]ひない、それに[illegible]

[illegible]

[illegible]三も[illegible]で入口をみつめてゐたが

「さア好枝、そろく入るか」

と[illegible]した。

入口の丸太[illegible]を[illegible]して[illegible]口を開いた。ムッとする[illegible]が、[illegible]をついて流れてきた。

「好枝、[illegible]を付けろよ、穴があるかも知れねえから、なるべく[illegible]につつかまつて[illegible]けよ」

「えゝ、大丈夫よ」

まつ暗の深い穴の中を、二人は探りしながら進んだ。カンテラだけでは、ほんの[illegible]元を照らすだけで一間先は[illegible]に[illegible]かつた。不意にバタバタと[illegible]、好枝の[illegible]にバタンと[illegible]つた。

「あツ」

彼女は[illegible]

花柳病科外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

メガネは！
平市二丁目
玉屋

洋酒と喫茶
麗人のサービス
氣分本位の店
ヒラ・ギンザ通り
グリル バツカ
電七〇一番

吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番
醫學士 [illegible]田久雄

洋品物は！
平市田町
[illegible]屋
電六五六

鈴木醫院
平市田町
電話五八番

毛類の洗濯はモノゲンで

モノゲン

毛類は大切

今着てゐる毛類を、明年も明後年も御役に立たせるには、ぜひモノゲンで正しい洗濯が肝要！ 石鹸質を含んだ擬ひの洗濯使へば哀れ毛類の命[illegible]しと思召せ

定價 [illegible]

市內有名店にあり

代理店

平三丁目 電五一二
(正)中野洋品店

酵母にまさる
榮養と食慾增進劑
肝鐵

百四十錠（一ケ月分）[illegible]
[illegible]（十五日分）[illegible]

肝鐵は……榮養劑として牛の臟器より製造したものであります。[illegible]胃の惡い人、便通の不整な人に[illegible]從來の[illegible]酵母や胃腸藥に比較して[illegible]御話にならぬ程よくきゝます。[illegible]ハツキリ[illegible]胃腸に大きな強み[illegible]服用して頂いて[illegible]絶對にありません[illegible]

効能
胃カタル・消化不良・病後食慾不振・黄疸・膽石・膽管炎・[illegible]・脚氣・[illegible]ビタミン缺乏症・[illegible]・[illegible]

阿康推選品
平市古鍛冶町（稻荷石段下）
專賣所 アコー藥局
電話 四四番
振替東京三〇〇六五番

▽自轉車とリヤカーの御用は！
平市才槌小路一二
矢野輪業商會
電話七〇番

割烹
花村
平市田町 電話四番

榮えある傳統・敦厚なる訓育
向學の青少年よ希望に燃えよ

生徒募集

◎中等科は三年制認可
◎專修科は受驗難關突破

磐城佑賢學舍

◎新校舍增築完成
◎支那語科開講
◎教練科實施
（電話九三番）

エタニツトパイプ
鐵管代用

	耐壓封度	內經	一本ノ長サ	一本ノ價額	ボルト繼手代
D級	250	50粍	3m	4.72	2.90
〃	250	75	3	6.97	3.50
B級	100	100	3	7.90	6.25
〃	100	150	4	17.70	9.20

平市仲町通り
文 山田文一商店
電話262番

女販賣員を募る
▽採用員 五名
▽年齡 十八才ヨリ二十才迄
◎詳細ハ平職業紹介所ニ問合セ下サイ
平市
三井呉服店
電話 三八 二八四番

宴會、御婚禮、仕出し
……お湯の設備あり……
女中さん至急入用
尼子亭
電話二三〇番